

インクルーシブ美術教育研究部会

障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期） の動向及び今後のアート教育実践/研究

How does art education confront disability studies?: Disability activism and art

今中博之 IMANAKA Hiroyuki アトリエ インカーブ Atelier Incurve	池田吏志 IKEDA Satoshi 広島大学 Hiroshima University	茂木一司 MOGI Kazuji 跡見学園女子大学 Atomi University	手塚千尋 TETSUKA Chihiro 明治学院大学 Meijigakuin University
---	---	---	---

テーマ設定の背景と主旨

2022年8月から、「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」の第2期（令和5年度～令和9年度）に向けた有識者会議が開催されています（以後、第2期基本計画）。2022年12月19日に公表された素案*では、第2期基本計画の目標が次のように示されました。

目標1：障害者による幅広い文化芸術活動の更なる促進や展開

目標2：文化施設及び福祉施設等をはじめとした関係団体・機関等の連携等による、障害者が文化芸術に親しみ、参加する機会等の充実

目標3：地域における障害者による文化芸術活動の推進体制の構築

特に、目標2、3は今回新たに加えられた内容であり、美術館やギャラリーなどの文化施設、障害者が生活する福祉施設、そして行政や学校などの関係機関の連携が強く推奨されています。横の繋がりを円滑にするために、“障害者芸術文化活動支援センター”や“中間支援団体”的役割にも言及されており、単独の施設で文化芸術活動に取り組むこと以上に、各団体、施設、機関がそれぞれのリソースを生かしながら補完・補強しあう互恵的な関係の構築が目指されているといえます。

あわせて、第1期基本計画にはなかった取り組みとして、各目標に対応した「進捗を把握するための評価の指標」が加えられています。具体的には、文化芸術を鑑賞したり活動を行ったりした障害者の割合や、文化施設における障害者の文化芸術活動の取組状況、支援センターの設置状況といった、量的な評価が検討されています。このように、第2期基本計画では、努力目標を超えた実質的な政策の実現が求められている点も注目されます。

そこで、今回の部会では、障害者文化芸術活動

推進有識者会議で中心的な役割を担われている、アトリエインカーブ代表の今中博之氏に登壇をいただき、障害者の文化芸術施策がどのような方向で進められていくのか、その内容や方向性、また、背景となる問題点についてお話をいただきます。なぜ、“文化施設や福祉施設との連携”や“地域における文化芸術活動の推進体制の構築”がこの時代に重視されるのか、また、アートがなぜ障害者の生活に必要で、どのように共生社会の構築に寄与できるのか、お話を伺いながら、今後の学校教育、福祉、社会教育、医療等におけるアート教育の実践/研究を展望していきたいと思います。

講師 今中 博之 氏

1963年生まれ。社会福祉法人素王会理事長、アトリエインカーブ代表、ソーシャルデザイナー。大阪大学ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)センター招へい教授、金沢美術工芸大学非常勤講師。障害者の芸術振興に関する懇談会構成員、障害者文化芸術活動推進有識者会議構成員。大阪府障がい者施策推進協議会文化芸術部会副部会長。イマナカデザイン一級建築士事務所代表(一級建築士)。グッドデザイン賞(Gマーク・ユニバーサルデザイン部門)など受賞多数。著書に、『なぜ弱いチームがうまくいくのか 守り・守られる働き方のすすめ』(晶文社)『壁はいらない(心のバリアフリー)、って言われても。』(河出書房新社)、『アトリエ インカーブ物語 アートと福祉で社会を動かす』(河出書房新社)、『かつこいい福祉』(左右社)などがある。

*障害者文化芸術活動推進有識者会議第7回（2022年12月19日）資料

[障害者文化芸術活動推進有識者会議 | 厚生労働省
\(mh1w.go.jp\)](http://mh1w.go.jp)